

気管支喘息について No.9



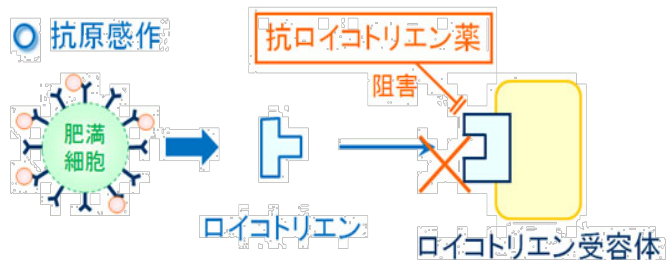
話題の新薬 メトアナ配合錠

抗ロイコトリエン薬(LTRA)

抗炎症作用に加えて気管支拡張作用がある。抗アレルギー薬の一つで長期管理に高い有用性を示す。

① 作用機序

アレルギー症状を引き起こす物質としてヒスタミンが有名ですが、ロイコトリエンはヒスタミンと同じように炎症やアレルギー反応に関与する化学物質です。呼吸に関わる気管支周辺の筋肉収縮にも関与しています。そのため気管支喘息の発作を誘発させます。このような作用から、ロイコトリエンが作用するための受容体を抑制することによって、ロイコトリエンがそれ以上作用できなくなり、抗アレルギー作用を得ることができます。



② 特徴

- 気管支喘息によって起こる気道の炎症を抑える
- アレルギー性鼻炎の症状を抑える
- 抗ヒスタミンのような即効性はない
- ケミカルメディエータ阻害薬と同じく作用発現には1週間以上は要する

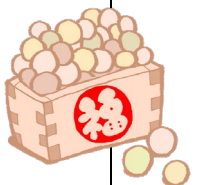
③ 薬剤名

- オノン (プランルカスト)
カプセル 112.5mg ドライシロップ 10%
1日量: 4カプセル 朝夕2回
- キプレス・シングレア (モンテルカスト)
錠 5・10mg OD錠 10mg
チュアブル錠 5mg 細粒 4%
1日量: 10mg 1回就寝前

2型糖尿病治療剤

三和化学は、2型糖尿病治療剤「メトアナ配合錠 LD・HD」を発売した。本剤は、DPP-4阻害剤:アナグリプチン(商品名:スイニー)とビッグアニド剤:メトホルミン塩酸塩(商品名:グリコランなど)による血糖降下作用を併せ持つ配合剤である。配合剤にすることにより患者さんの服薬錠数が減少し、服薬アドヒアランスの向上が期待できる。通常、成人にはメトアナ配合錠 LD 1回1錠(アナグリプチン/メトホルミン塩酸塩とし100mg/250mg)又はメトアナ配合錠 HD 1回1錠(100mg/500mg)を1日2回朝夕に経口投与する。

薬価 メトアナ配合錠 LD・HD 1錠=62.2円



副作用情報 ラミクタール

GSKから販売されている抗てんかん剤の「ラミクタール錠 25・100mg」は、直近3年3か月の副作用報告であって、因果関係が否定できない副作用として、「血球貪食症候群」が1例(うち死亡0例)報告された。そのため重大な副作用の項に「血球貪食症候群」が追記された。

高齢者 冬場の入浴に注意

消費者庁は高齢者に入浴に注意するよう呼び掛けている。意識を失って溺れるなどし、浴槽で死亡したケースは2016年に65歳以上で4821人に上った。同年に交通事故に巻き込まれて死亡した65歳以上の3061人を上回っている。浴槽での死亡事故の約7割は11月から翌3月の間に発生。脱衣所や浴室と、湯を張った浴槽との温度差が大きく、血圧が急激に変化することが原因とみられる。地域差はそれほどなく、温暖な地域でも起きている。消費者安全課は、注意点として①脱衣所や浴室を暖める。②湯温を41度以下にし、漬かるのは10分までにする。③浴槽から急に立ち上がらない。④飲食直後や、精神安定剤、睡眠薬の服用直後は入浴しないようにする一などを挙げている。

